

沖縄女子短期大学・与那原町共催  
ピンチをチャンスに！コロナ禍における  
課題解決型オンラインインターンシップ

沖縄女子短期大学

教学課主任 津波古 吟枝

# 沖縄女子短期大学について

|        |                                      |
|--------|--------------------------------------|
| 創立年    | 1966年                                |
| 建学の精神  | しらゆりの如く気品と強さがあり<br>知性豊かで愛情あふれる人を教育する |
| 住所     | 沖縄県島尻郡与那原町字東浜1番地<br>※2015年に那覇市より移転   |
| 専任教職員数 | 37名                                  |
| 学科・定員数 | 総合ビジネス学科 70名<br>児童教育学科 200名          |
|        | ※2003年より男子学生入学可能。                    |
| 就職率    | 97.7%<br>※2021.3.31時点                |



沖縄女子短期大学  
(与那原町字東浜1番地)



大学正面



6Fからの眺め

# オンラインインターンシップ導入の背景

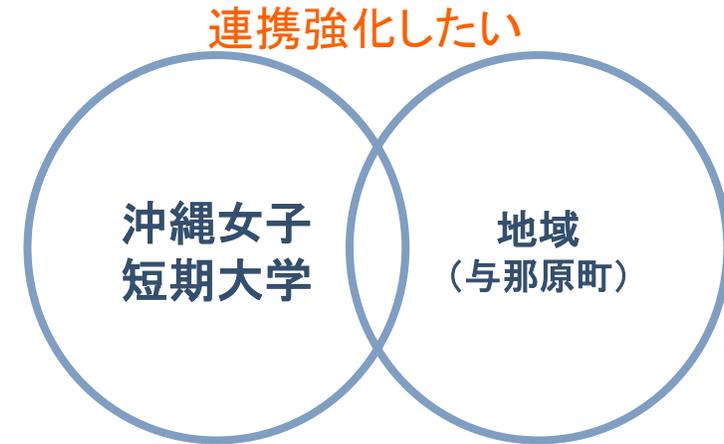
## 沖縄女子短期大学の教育目標

- 1、気品と社会人基礎力を備え、自ら学び続けることのできる人
- 2、平和を志向し、地域創生へ参画することのできる人
- 3、未来を見つめ、専門性の向上に努力できる人



実現のために

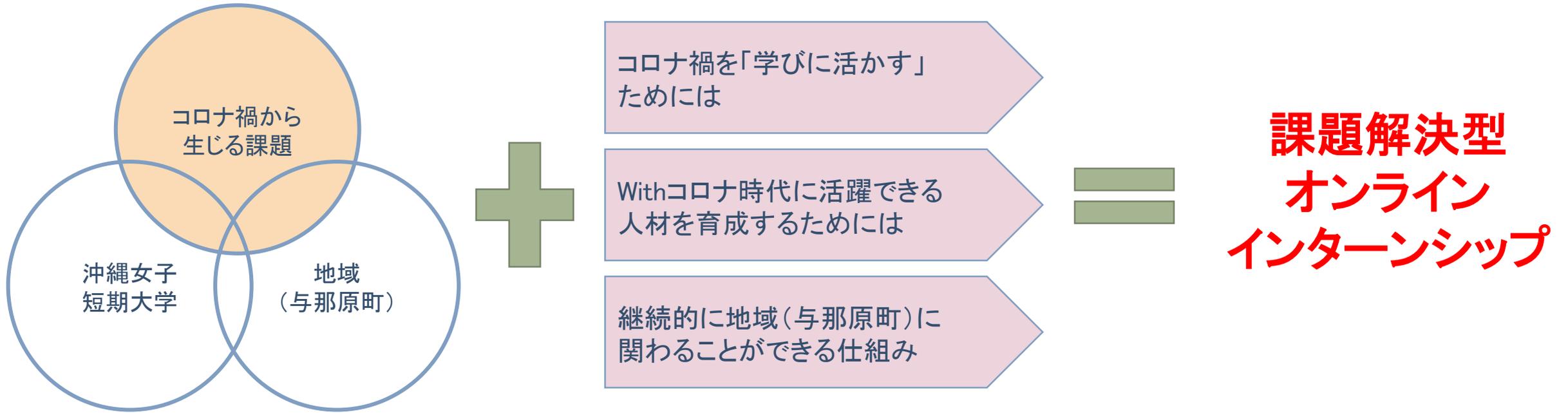
地域と関わる課外活動をし、  
自分なりの意見と行動ができることが重要。  
⇒与那原町と連携を強め、機会の充実を図りたい。



新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、状況は一変！！  
新たな課題として

- これまでのインターンシップや課外活動等を実施することが困難。
- 就職活動の面接でオンラインでのコミュニケーションに対応できずに困惑している学生が多数。
- 今後の「働き方」の概念が変わる。

# オンラインインターンシップ導入の背景

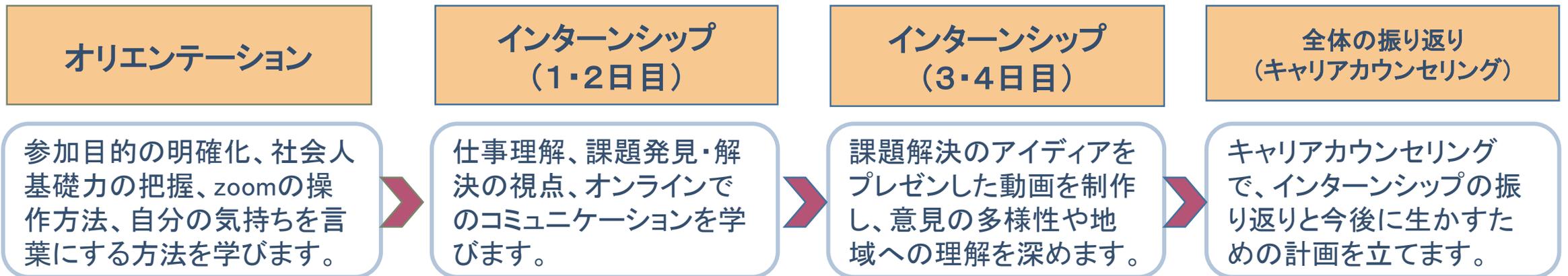


## 到達目標

- 「与那原町」を知り郷土愛を育む
- 行政の仕事理解、そこで働く人の働き方、想いを理解する。
- 地域の課題を発見し、課題解決むけて取り組み、自分の意見を伝えることができる。
- 「新しい生活様式」に向けてzoom等オンラインでのコミュニケーションに慣れる。

# プログラムについて

- 2020年9月7日～9月25日の期間中に、オリエンテーション、インターンシップ4日間、キャリアカウンセリング1回(60分)を実施。
- 総合ビジネス学科2年次3名、児童教育学科1年次3名 計6名参加
- 学生とは対面で会わず「完全」オンラインで実施できるように作成。



## 作成のポイント

- 与那原町の課題を当事者意識で取り組むための仕組みづくり
- 日々の振り返りの時間を重視。

※「自身の感情に向き合う(内省)→言葉にする→書く」という一連の流れを繰り返す

# 活用したアプリケーション一覧表

| ツール               | 使用方法   | 機能  | 注意点  | 代替アプリケーション                                |
|-------------------|--|---|--|---|
| ZOOM              | <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 講座</li> <li>➤ コミュニケーションワーク</li> <li>➤ プレゼン録画</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ブレイクアウトセッションを使用したグループワークが可能</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Wi-Fi状況により声が遅れる、画面が止まることもある。</li> <li>➤ 天気にて左よって左右される。(雷→停電)</li> <li>➤ 使い方のルールが必要。安心・安全の話せる空間の工夫。</li> <li>➤ 疲れるため適度な休み時間が必要。</li> </ul> | Google meet<br>※ブレイクアウトセッションのような機能に工夫が必要) |
| Glexa<br>(eラーニング) | <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 課題収納</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ いつでもどこからでも課題を見ることができる。</li> </ul>  |  | Google classroom                          |
| Slack             | <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 職員と学生の掲示板</li> <li>➤ 学生間の掲示板</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 電話が使える。</li> <li>※Wi-Fi環境により連絡が取れなくなることも想定して、電話が使用できることから導入。PCとスマートフォンどちらもアプリを入れる(無料アプリ)</li> <li>➤ メッセージの通知時間を制限できる。</li> </ul> |  | Google classroom<br>※電話機能なし、外部者の扱い        |
| Google<br>ドライブ    | <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 課題提出</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 容量の大きいデータの受け渡しが可能</li> </ul>   |  |   |
| Power<br>Point    | <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ プレゼン資料の作成</li> </ul>                                    |   |  | Google スライド                               |
| Google<br>フォーム    | <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 申し込み</li> <li>➤ 課題の評価</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 動画と評価票をフォーム内に入れることができ、発表会の参加者以外でも評価をしていただける。</li> </ul>  |  |   |

# インターンシップの様子



学生は自宅もしくは大学で受講。  
希望者にPC貸出。



各々のPCより発信。  
照屋与那原町長より激励の挨拶を頂く。



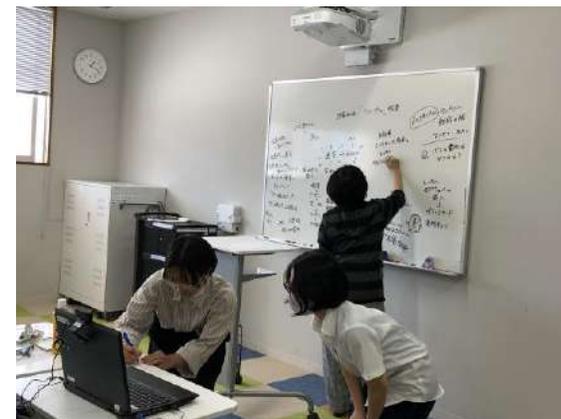
ZOOMの表示画面



(1日目)与那原町役場の様子。グループセッションに分かれて、仕事のやりがいや公務員を目指したきっかけなど話していただく。



(2日目)「選挙、公共交通機関、観光」について与那原町の担当職員より現状と課題について説明頂く。



(3日目)個人ワークとして与那原町の課題に自分なりの解決策をプレゼンした動画(5分~7分)を作成する。学生同士でZOOMを使用してお互いの案を高める様子が見られた。

# インターンシップの様子



(4日目)課題発表会。作成した動画に対し、与那原町の担当課長より講評を頂く。学生6名、与那原町職員9名、沖縄女子短期大学教職員4名が参加。

## 与那原町からあげる 若者の投票率

発表者

沖縄女子短期大学  
総合ビジネス学科 ビジネス心理コース

学生が作成した動画。後日Googleフォームを使用し、与那原町職員、沖縄女子短期大学職員より動画に対して評価を頂き学生にフィードバックした。

## 課題発表テーマ・タイトル

### 選挙

- 分からない選挙から分かる選挙へ
- 与那原町からあげる若者の投票率

### 公共交通機関

- 循環型コンパクトシティ
- 公共交通機関について

### 水路を利用したイルミネーション

- 水路を舞台にしたサマーイルミネーションフェスティバル
- 与那原町知名度低め！？インパクトを！

## 効果① 到達目標について～学生自己評価

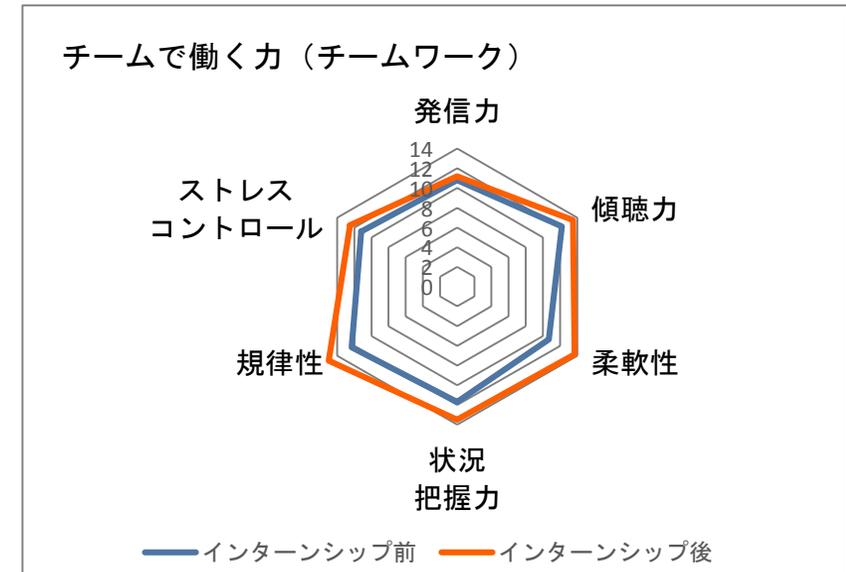
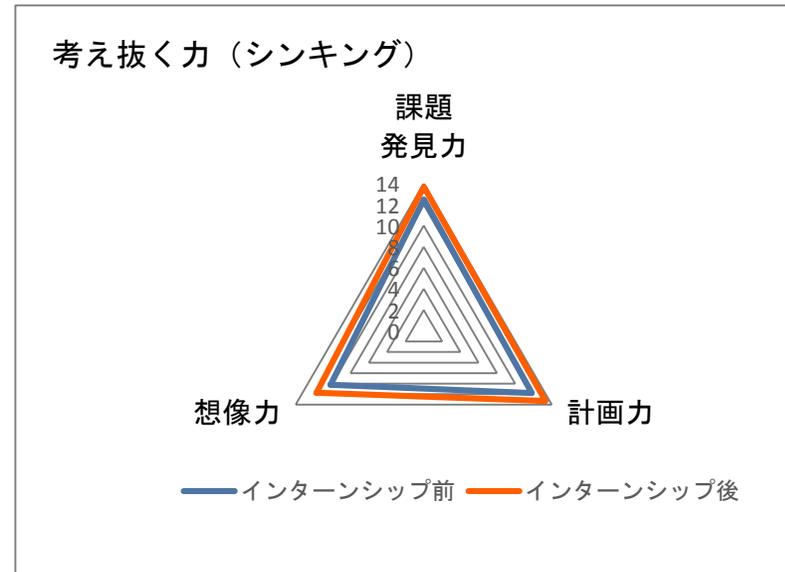
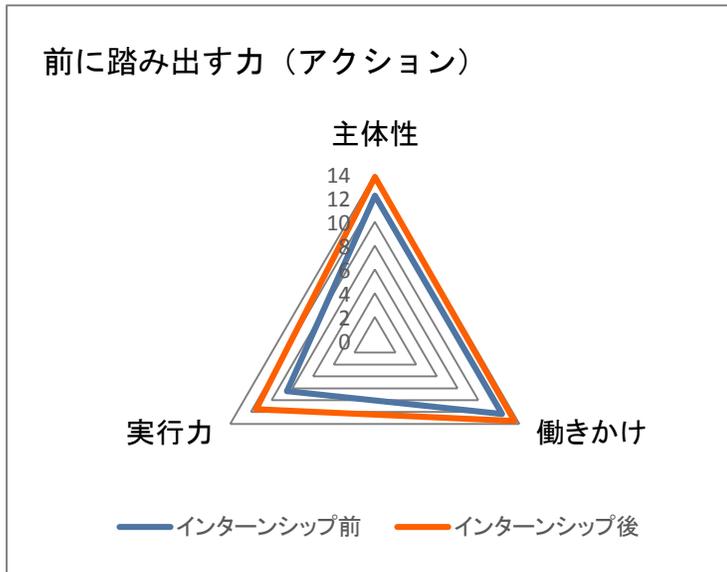
### 到達目標

下記項目に対し、「とてもそう思う」「そう思う」「少し努力が必要」「かなり努力が必要」の評価の内、該当するものに回答。

- 「与那原町」を知り郷土愛を育む。 「とてもそう思う」100%(6名中6名回答)
- 行政の仕事理解、そこで働く人の働き方、想いを理解する。「とてもそう思う」83%(6名中5名回答)「そう思う」(6名中1名回答)
- 地域の課題を発見し、課題解決むけて取り組み、自分の意見を伝えることができる。「とてもそう思う」100%(6名中6名回答)
- 「新しい生活様式」に向けてzoom等オンラインでのコミュニケーションに慣れる。「とてもそう思う」100%(6名中6名回答)

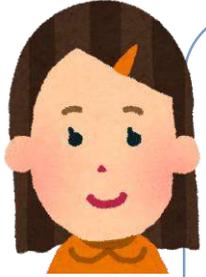
# 効果② 社会人基礎力について～学生自己評価

- オリエンテーションとインターンシップ最終日に社会人基礎力についての自己評価票を回答。  
自己評価票は、厚生労働省「平成29年度労働者等キャリア形成における課題に応じたキャリアコンサルティング技法の開発に関する調査・研究事業」参考に作成。
- 「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3側面、計60項目に、「かなり当てはまる(3点)」「やや当てはまる(2点)」「あまり当てはまらない(1点)」「当てはまらない(0点)」とし、参加学生の平均値をグラフ化した。
- インターンシップ前、全体的に高得点だが、「実行力」、「発信力」は比較的低い傾向があった。
- インターンシップ後、学生全員が上昇した。特に、「チームで動く力」が高く、「規律性」「状況把握力」、「柔軟性」、「傾聴力」はオンラインでの対面より不自由な状況およびアプリの工夫次第で学生間でコミュニケーションや情報交換の幅が広がる環境も影響していると考えられる。



## 効果③ 学生の感想

### Q.社会人基礎力の中で特にどんな力が伸びたと感じていますか？



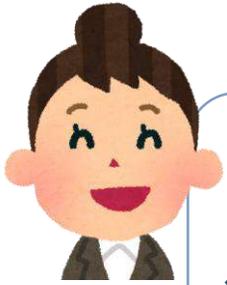
#### 「傾聴力」

オンラインでのコミュニケーションをきっかけに、頷く、笑顔等の「非言語コミュニケーション」を充分に使うことを意識するようになった。久しぶりに会ったクラスメイトから「表情が明るくなった」と言われるようになった。



#### 「課題発見力」

与那原町の課題を、課題解決のアイデアの提案を通じて、裏付けデータを調べたり、提案の効果を考える過程でこれまでよりレベルアップしたように感じる。



#### 「働きかけの力」

自らグループのために行動を起こすようなリーダーシップ性はこれまで感じることは少なかったが、「いいものを作りたい」という制作意欲があると自然に行動ができるという新たな自分を発見した。

**自己理解が深まり、自己肯定感が高まっていると思われる。**

## 効果③ 学生の感想

### Q.参加後、気持ちや行動の変化がありましたか？



親の付き添いで役所に行った時、受講前ならスマホを見たりしていたが、掲示板や配置図を見て部署の種類や、役割について興味を持つ自分がいた。視野の広がりを感じた。



「人とのつながり」の重要性を再認識できた。コロナ禍では人との接触を避けるため、課題等一人で作業することが多くなっていたが、誰かと共同で作業したり、複数名の会話から新しいことを発見したり、価値観を広げられたり、人と人が支え合うとよりいい方向に転換して行くことができることを実感した。直接会うことのできるこれまでの当たり前はありがたいことだったと認識した。

**これまで気がつかなかったことに気づくなど、視野の広がりを感じる。**

## 効果③ 学生の感想

Q.この経験を今後どのように活かしていきたいですか？

完璧ではない自分をさらけ出すことで、今まで自分の中にあった制限を飛び越え、「仲間に頼ること」や、「人を信じること」の重要性を実感できた。私も周りの人を助け、受容し、楽しい学生生活を**クラス**の皆と過ごせるように努めていきたい。

得た経験を自分の中に留めておくのではなく、アウトプットして**大学全体**がもっと良い方向に進むようにお手伝いしたい。

**与那原町**をより良くする活動をやっていきたい。



**クラス・学校・社会等、周辺的环境に対して「働きかける」という当事者意識が芽生え始めている。**

# インターンシップ後の影響について

## ①参加した学生の活躍

- 与那原町FMラジオ出演
- 与那原町「よなばる綱がるプロジェクト」

出発式に参加→COMSを貸与

→サークルの設立

- 与那原町広報誌にて町内取材・記事提供
- 与那原町、大学の取り組みでリーダー的な役割を担う。



出発式に参加



貸与されたCOMS

### 沖縄女子短期大学にモビリティサークル誕生

#### 部活動が与那原と学生をつなげる

与那原町では、地域にも人にも優しい「持続可能なまちづくり」を目指し「よなばる綱がるプロジェクト」に取り組んでいます。その一環で、町内に1人乗り電気自動車COMS(コムス)が導入され活用が進んでいます。COMSの活用の可能性を探ろうと、このほど沖縄女子短期大学の学生が「モビリティサークル」を創設しました。



#### 出てくるアイデア

「創設のきっかけは、よなばる綱がるプロジェクトの出発式です。そこにおったCOMSが可愛く、乗ると楽しかったので、これを何かって何かしてみたいって思いました」と語る部長の与那原裕里恵さん(1年)。モビリティサークルでは、実際にCOMSに乗って町内を回ります。回ることで与那原を知り、知ることでCOMS活用のアイデアがたくさん生まれます。「町内に設置した屋根付きポイントをCOMSで回り、誰かが乗ってほしい、いいね、おもしろい物をSNSを通して勧めたい、いろいろアイデアが出てきます」と友利花音さん(1年)。学生の視点で、ユニークなアイデアがたくさんあるようで、副部長の奥さん(1年)は地域に負けないアイデアを探ります。アイデアを出すためにほかの地域のことを調べることもあり、「部活動を通して社会を知るきっかけとなり、視野が広がった」との実感もあるようです。

#### サークルが地域と大学を結ぶ

アイデアを実現するための資金など課題は山積みです。「課題はありますが、学生たちは、部活動を通して地域に親しみ込むことにより、実社会に近い経験をし、将来役に立つと信じています。地域に育ててもらい感謝しています。この活動で力をつけて卒業後も与那原を支援していくサポーターになることを期待しています」と話すのは顧問の津波古津性さん。サークル活動が地域と大学を結ぶきっかけとなり、学生の成長を後押ししているようです。実は、モビリティサークルの顧問は、昨年8月、当町が開催したオンラインによるインターンシップに参加した方々です。そこで各地の仕事や形態に興味を持ち、今回のサークル創設に、与那原町も学生の取り組みをサポートします。モビリティサークルの活動に期待してください。

広報よなばるにサークル掲載



取材にあたり「新聞記者から学ぶ取材・写真のコツ」セミナー

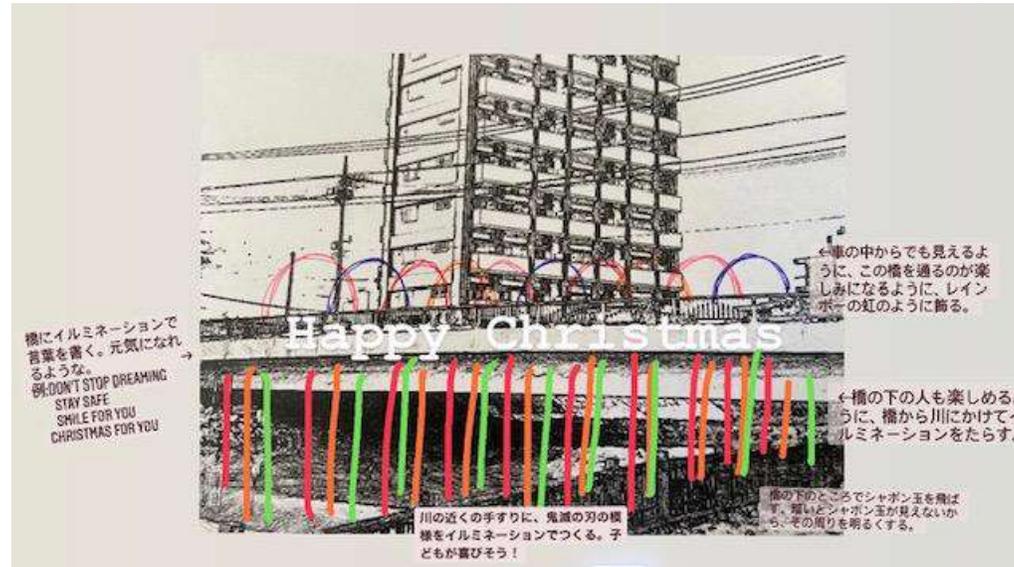
# インターンシップ後の影響について

## ②与那原町との連携強化

### ➤クリスマスイルミネーション実行委員会(2020.10~2021.1.31)

学生22名が参加。イルミネーションのデザイン、作製、ポスター冊子、動画等を制作する。**2021年度募集中。7月より実施予定**

関係機関:与那原町観光商工課、与那原町青年会、商工会青年部



YONABARU  
イルミネーション2020  
与那原町役場 × 沖縄女子短期大学 協働プロジェクト  
雪の心にどんな光が灯るかな?



# インターンシップ後の影響について

## ②与那原町との連携強化

### ▶クリスマスイルミネーション実行委員会(2020.10～2021.1.31)



### 学生の感想

▶ 実際にどのように完成するかを想像して、そこからの逆算でどうしたら想像した完成図)をつくることができるのか、**計画性が大事**だなと感じました。「来れる日は来て」と自主性に任せて集まることの大変さと、交流がない他クラスや他学年との**交流の仕方**も学んだと思います。

▶ 自分たちが制作したイルミネーションを見て喜んでいる子どもや大人の姿を見て達成感を感じた。制作を通して、見る人の視点を大切にすること、安全面を配慮すること、大きさや形など、気をつけることが沢山あることを実感し、**今まで見る側だったイルミネーションが「自分たちで作る」という楽しさややりがいを感じた。**

# インターンシップ後の影響について

## ②与那原町との連携強化

### ➤SDGs for School(2020.11月～) ※月1回土曜日実施

学生10名が参加。与那原町に所在する知念高校とSDGsについて学び、「環境・教育・健康ヘルスケア・商品開発・交通」の視点から与那原町の課題解決について考え、具体的な計画案策定、実施するプログラム。

関係機関: 与那原町企画政策課、みやまHD、与那原町青年会、知念高校等

2021年5月22日に中間報告会(YouTube配信)を実施。2期生募集し、11月に実践予定。



# 最後に(担当者の気づき)

■「だからこそ」できることもある。

## 不自由な状況「だからこそ」

- 対面のありがたさに気付く。
- コミュニケーションを意識する。
- 積極的に取り組む。

## アプリケーションを使う状況 「だからこそ」

- 工夫次第でコミュニケーションや情報の質が高まる。

■ 関わる大人が学生の成長を願い、可能性を信じられるか。それらを表現できるか。心がけが重要。

■ 動くことで状況は変わる。予測不可能で予定どうりにならない状況だからこそ、大人が試行錯誤しながら状況を変える姿勢を示すことが重要。

沖縄女子短期大学 教学課

連絡先:(098)882-9003

<https://www.owjc.ac.jp/>

担当:津波古 吟枝